

International Commercial & Engineering Seguros

モザンビークの保険分析

2018年4月

格付けクラス クレーム支払い能力	格付け尺度 全国	格付け A-(MZ)	格付け見通し 安定	有効期限 2019年4月
---------------------	-------------	---------------	--------------	-----------------

財務データ:

(単位: USD)

	31/12/16	31/12/17
総資産	9.0	32.1
総資本	1.6	8.9
現金及び同等物	1.8	12.7
GWP	8.1	20.3
U/w 結果	(0.5)	0.1
NPAT	0.0	0.2
Op. キャッシュフロー	1.0	3.5
時価総額		n.a.
市場占有率*		12.9%

*産業全体短期GWP 2017に基づく

格付け履歴:

初期格付け (2015年4月)

クレーム支払能力: BBB+(MZ)

格付け見通し: 安定

最後の格付け (2017年5月)

クレーム支払能力: BBB+(MZ)

格付け見通し: 安定

関連する方法論/研究:

短期保険会社の格付け基準、2017年7月更新

新たに設立された保険会社と新興保険企業の格付基準 (2017年7月更新)

ICE格付け報告、2015-2017

GCR連絡先:

プライマリアナリスト

Tichaona Nyakudya

クレジットアナリスト

tichaonan@globalratings.net

委員長

Yvonne Mujuru

セクターヘッド: 保険格付け

ymujuru@globalratings.net

アナリスト所在地: ヨハネスブルグ, ZA

電話: +27 11 784-1771

ウェブサイト:

格付けの概要と根拠

- International Commercial and Engineering Seguros (以下「ICE社」) 格付けの格上げは、2017年12月の6,110万ドルの資本注入に伴うリスク調整後の資本化増強を反映しています。さらに、資本注入の大部分の配置後に非常に強い範囲内で測定された資産内容が、流動性のある金融商品で進行します。これらの評定因子の評価は、格付け期間にわたって持続されると予想されます。
- 最近の資本注入により、保険および市場リスクへの適度なエクスポージャーに加えて、ICEのリスク調整後の資本化は非常に強力な水準で評価されます。この点で、非常に限られたリスクベースを背景に、調整された国際ソルベンシーマージンは、FY17 (FY16: 84%) において500%を超えて増加しました。将来を考えて、リスク調整後の資本化は、非常に強い資本基盤と保険および市場リスクへの限定的なエクスポージャーによって、格付け期間にわたって強い範囲内で留まると予測されています。しかし、GCRは、潜在的な利益の変動性へのエクスポージャーを考慮すると、中期的にはリスク調整後の資本化が緩和される可能性を指摘しています。
- 流動性は、非常に控えめな資産配分とキャッシュ・フロー生成の強化により、強力な水準で測定されました。さらに、短期金融商品のFY17資本注入収益の大部分配置は、現金および同等価値の1270百万米ドル (FY16: 1,800百万米ドル) に実質的に強化されました。総投資ポートフォリオの一部として、流動資産はFY17 (FY16: 100%) に98%を占め、残高は非上場株式になっています。この点で、平均月間クレームおよび純テクニカル基準のキャッシュ・カバレッジは、それぞれ301ヶ月および11.2x (FY16: 60ヶ月および1.2x) のレビュー期間のピークに等しいでした。流動性メトリクスは、格付け期間にわたって同様の範囲内で推移すると予想されます。
- ICEの最近の競争力の進歩により、ビジネスプロファイルが改善されました。したがって、保険会社は短期ビジネスで3番目に大きなプレーヤーであり、GWP期間中のFY17 (FY16: 5.4%) における市場シェアは12.9%です (経営モデルで利用されている再保険の高い程度を考えると、NWP期間に限られたものであって)。これは主に、モータおよび労働者の報酬ポートフォリオの廃止に引き続いて起こるプレミアム・ボリュームの減少を相殺するだけでなく、FY17に単一で多額の政策を取得したことに起因しています。それにもかかわらず、最近の市場シェア獲得の持続可能性は、メガ・ポリシーの継続的な更新に非常に敏感です。さらに、製品構成は総額ベースで火災に強く偏っており、純額ベースでモーターに偏ります。その中、火災ラインは総保険料ベースの75%を占めており、モーターポートフォリオはFY17 (FY16: 49%、44%) で純保険料ベースの47%を占めます。
- 近年の引受業績の黒字化 (FY17: 10百万米ドルの利益、FY16: 5百万米ドルの赤字) にもかかわらず、収益規模は中規模の範囲内で引き続き傾向があり、規模効率の達成を制約する中核の火災ポートフォリオにおける非常に保守的なプレミアム保有戦略を追求しています。保険引受勘定の戻入れは、手数料回収率の上昇に加え、準備金免除 (0.4億米ドル) によるものでした。GCRは、そのようなパフォーマンスが持続可能なソースから導き出されるべきであるという全体像にもかかわらず、企業の創業段階に照らして、最近の保険引受業績の進展を積極的に考慮しています。高水準の手数料回収率は、格付け期間にわたって収益力を維持することが期待されていますが、規模効率の実現 (資本増強によるNEPベースの成長の見通しを考慮) は、中期的には潜在的な収益力の源泉とみなされます。
- 再保険の保護は、ICEの事業戦略との関連で不可欠であるとみなされます。この点で、ほとんどの再保険カウンターパーティーが示す適度な信用力は、資本リスクを多少軽減する役目を果たします。さらに、FY17の資本基盤の拡大 (資本注入による) は、資本比率として最大XoL (超過損害額) の正味保有額を2.8% (FY16: 6.3%) に調整しました。

格付けアクションを引き起こす要因には、

ポジティブな変革: 積極的な格付けアクションは、強力な流動性とリスク調整後の資本増強の維持に加えて、収益力の持続的な改善に起因する可能性があります。さらに、ビジネス・プロファイルの改善 (リスク保持率の向上によって支持される) により、ポジティブな格付けにつながる可能性があります。

ネガティブな変更: ネガティブな格付けアクションは、収益力および/またはビジネスプロファイルの悪化に加えて、リスク調整後の資本化の長期的な削減 (利益保持のショックによる) に起因する可能性があります。

